

No. 32

1995

9月1日発行

萩の郷

発行者
下市田区
発行責任者
下井武平
印刷
下市田・キタバヤシ印刷



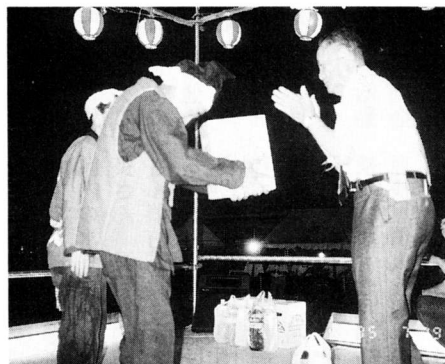
▲ピチピチギャルのエアロビクス

第九回 萩の里祭り 七月二十九日

一、五〇〇人が集って
最高に盛りあがる



▲各区発表会は
今年からとり入れた自由曲が大好評



▲区長さんから
各区発表会の賞品を受けとる部落長さん



▲見よう見まねのエアロビ踊り? が始まった

★プログラム★

★第一部 六時四十分から

全員による納涼盆踊り大会

★第二部 七時十分から

高森音頭他 各区発表会

五区すごい男の歌、六区市

田音頭、一区水戸黄門踊り、

二区高森音頭、四区かべぬ

り甚句、三区高森音頭

★第三部 七時五十分から

子供花火大会

★第四部 八時二十分から

エアロビクス大会

★第五部 九時から

納涼盆踊り大会ージャンケン

ゲームもとり入れたら

☆各区の青年部 六時から

お楽しみコーナー開店



▲賑わう「萩の里祭り」会場



ことしは保育園児も
「にんじん忍たま音頭」
で仲間入り



▲子供花火大会ー
二五〇人の花火が一斉にパチパチ

区の情勢について

区長 下井 武平

近年下市田区の運営に關し、予算上収支の均衡が困難な情勢となりましたので、今度、各種補助及び区の負担金等の見直しの検討を行なう事となり、特別委員を委嘱し審議していただく事となりました。審議会の答申を得て、平成七年度事業より実施してまいりたいと考えています。区民各位の御理解と御協力をお願い致します。

公共下水道処理場については、直接関係者を含めた黒沢下の耕作者と町との話し合いが付き、現在実施計画に入っています。然し農免道路が処理場予定地境を通る事となりましたので、処理場に支障の無い限り同用地を利用する事となりこの線に沿った設計になります。

公民館の建物につきましては、建築後四十年近く経過し、講堂の手狭、会議室の間取りの不便、建具の立付不良、網戸の脱落等の為、代議員会の意見に依り、改築を前提とした研究に入る事となり「公民館改築研究委員会」を発足、以後慎重に研究を進めています。

「ふるさと豊道(湯ヶ洞・国道間)」の下市田地区内の予定線につき県にて三つの案を検討した結果、現道に沿った線が最良との結論に達し、県より地元関係者に説明会がありました。種々問題点が多く、現在地元委員が町を通して県と折衝しているところであり、公共下水道処理場については、直接関係者を含めた黒沢下の耕作者と町との話し合いが付き、現在実施計画に入っています。然し農免道路が処理場予定地境を通る事となりましたので、処理場に支障の無い限り同用地を利用する事となりこの線に沿った設計になります。

消防委員の活動

委員長 中村 敏彦



この度消防委員会と、その活動報告という事で又筆を取る事になりました。

区民の皆様には日頃は消防活動に付きましては、ご理解ご協力を頂きまして、大変ありがとうございます。では年間の消防活動について報告をしてみたいと思います。一月には常会長・委員会合同会議、三月委員会事業について、四月自衛消防連絡協議会総会、区内水利状況確認、五月消防退団者慰労会、六月梅雨期の危険箇所見廻り、七月消防施設の点検、八月防災訓練、打合せ、九月防災訓練、区委員厚生大会、カラオケ大会、十月委員会、地区計画の見直し、十一月委員会、必要があれば十一月消防委員会合同会議、消防委員慰労会等ありますが、ではその内容と説明をしてみたいと思います。

平成6年度 下市田区一般会計決算報告書

(自平成6年4月1日～至平成7年3月31日)

収入合計 43,708,567円
支出合計 41,141,626円
差引残高 2,566,941円

【1. 収入金の部】

項目	予算現額	決算収入額
1. 区費	15,383,700	15,576,300
2. 繰入金	4,280,000	4,402,922
3. 町支出金	10,983,200	11,542,634
4. 財産収入	1,465,000	1,146,090
5. 寄付金	1,183,800	704,613
6. 消防義務金	2,460,000	2,540,000
7. 諸収入金	5,252,100	5,134,376
8. 前期繰越金	2,661,632	2,661,632
収入合計	43,669,432	43,708,567

【2. 支出金の部】

項目	予算現額	決算支出額
1. 総務費	12,801,000	12,430,075
2. 厚生費	800,500	801,787
3. 林務費	1,024,600	1,062,205
4. 土木費	13,848,700	14,256,056
5. 水利費	6,896,500	6,539,001
6. 消防費	2,805,700	2,134,528
7. 公民館費	2,980,000	2,980,000
8. 予備費	2,512,432	937,974
支出合計	43,669,432	41,141,626

平成6年度 下市田公民館会計決算報告書

(自平成6年4月1日～至平成7年3月31日)

収入の部			支出の部		
科目	予算額	決算額	科目	予算現額	決算支出額
繰越金	85,765	85,765	総務費	1,850,000	1,845,562
繰入金	2,980,000	2,980,000	教養部費	1,154,000	1,153,183
補助金	1,048,900	1,068,900	体育部費	583,000	583,310
雑収入	1,000	819	視聴覚部費	248,000	247,823
			図書部費	107,000	106,132
			予備費	173,665	30,650
合計	4,115,665	4,135,484	合計	4,115,665	3,966,660

一月は新年会をして、これからの消防委員としての取組みの報告、二月は他の消防委員との事業計画の作成、四月は他の自衛消防班長さん副班長さん消防委員とで、消防委員連絡協議会にその自衛消防の活動状況、又その中から正副会長の決め方。又会長が必要な時、会議をします。区内の水利状況は現役の班長さん、又自衛消防の班長さん消防委員さんで見廻る。五月の消防退団者とは現役の消防団の退団者であります。六月の梅雨の危険箇所見廻りは、四月では見逃した所を消防委員等で点検します。七月消防施設の点検、消火栓器具の点検は区からの要望でかえていく事にしています。八月・九月の計画の防災訓練等では役場からの資料等を見ながら計画して区民の皆様にご協力とご理解を頂くこの事業が、消防委員の大変な任務であります。

消防委員一丸となって頑張ります。よろしくお願ひします。

下市田公民館（区民会館）の改築について

= 下市田公民館改築研究委員会 =

改築研究委員会の研究経過（8/20現在）

- 2/26(日) 改築研究委員会発足（委員会委員任命）
- 3/5(日) 全体委員会
・「公民館を建て替える必要のあること」の確認。
・「どの様に研究を進めてゆくか」の検討。
- 4/23(日) 全体委員会
・研究の参考のため、他地域公民館施設を視察。
（山本・伊賀良・松尾）
- 5/29(月) 小委員会
・小委員会委員任命
・視察結果のまとめと問題点の抽出。
- 6/27(火) 小委員会
・抽出された問題点を6項目にまとめ、3班に別れて
同一6項目について班別研究。
- 7/6(木) 全体委員会
・小委員会での研究内容の説明と承認。
小委員会
・小委員内のプロにより、基本計画（平面図）の素案
を作成する。
・区民へのPR、意見集約のアンケートを行う。
（別に広報グループをつくる）
- 7/21(金) 小委員会
・基本計画（平面図）素案の三案を夫々班別研究。
・アンケートの考え方をまとめ、スケジュールを検討。
- 8/7(月) 小委員会
・アンケート（案）について検討し決定。

今後の研究予定（8/20現在）

1. 区民へのアンケート
回収・集計を8月末目標とする。
2. 基本計画（平面図）の作成
アンケート結果と、基本計画の素案三案の検討結果を基に、
基本計画案を作成する。9月末目標
3. 区長への答申 10月初旬目標



昭和63年撮影の下市田公民館

区民会館建物としての 下市田公民館について

して活用され
て来た。
現在の建物

下市田公民館改築研究
委員会は、下市田区長の
諮問により本年二月以来
研究を続けている。その
主な経過と今後の予定、
委員名簿は、別掲の通り
である。

まず、改築の必要性等
を述べるべきであるが、
一九八八年（昭和六十三年）発行の区報「萩の郷」
十四号の表紙写真と記事
を以てそれに代える。

下市田公民館は創立後
三十年近い歳月が流れ区
政、公民館活動の拠点と
して活用されて来た。

現在の建物の建設以前は荒神様の社務所を区の事務所としていたが、昭和三十一年初から区有林を売却した資金を基に公民館を建設しようという区民の総意により、三十四年春着工、十月十五日に竣工したものである。当時の公民館としては、体育館を兼ねた舞台付の講堂、会議室と兼用の結婚式場、集会室、青年研修室、図書室、調理場等時代を先取りした近隣にみられない、近代的建物であった。

当初は一〇〇〇㎡余の敷地に総延面積六〇〇㎡の建

物を久保田正吉氏の設計により五〇〇万円余の工事費で三六組をはじめとした業者が施工したものである。

長年区民に親しまれ活用された施設も、何時か時代にそった建物への模様替えの声も聞かれる時期ともなった。

原文にもあるが、「時代にそった建物への模様替えの声」が、已に七年前頃より聞かれていた。

区政も公民館活動も、時代と共に変化しており、その対応の為にはこの建物は不適当な点が多くなっている。又建築以来三十七年の間には、建築技術や材料面で著しい進歩を遂げており、時代にふさわしい建物とは言い難い。

下市田区の顔としての下市田公民館（区民会館）建設の気運が高まったのは、当然のことと云える。

改築研究委員会委員名簿 76名

◎印：委員長 ○印：副委員長 ◇印：小委員会委員 ◆印：事務局員

区 代 議 員	○北沢善二郎	◇今村保一	◇福沢康吉	遠山邦人	福島義三
	◇蜂谷睦雄	松島修三	三浦健一	片桐 猛	◇林 稔
	蜂谷隆雄	◇小川純昭	小川博志	◇下平民也	北原勝朗
公民館三役	◎北原洲平	◆大屋敷清利	◆池田政子		
部落主事	◇吉沢清美	矢沢 智	片桐 猛	牧内睦夫	小島俊孝
	斐 三郎				
区委員会正副委員長	有賀重昭	仲平 伸	上沼俊彦	宮外正彦	伊奈川和彦
	古林秀美	北島邦夫	棚田利宣	中村敏彦	酒井博之
公民館正副部長	◇松岡修二	西村満子	林 兵一	◇鎌倉孝三	林 増美
	牧内美美子	◇北沢幸保	坂牧由恵	近藤昭弘	◇唐沢清美
	古木英男				
高 寿 会	◇北沢義美	手塚 諄	斐 寛夫		
婦人会正副支会長	◇井駒よし子	三浦ひさ枝	熊谷築子	岡本宏子	
日赤奉仕団正副分団長	下井信子	◇坂牧幸枝			
食生活改善グループ	◇伊奈川京子	沢 すみ子	三浦美穂		
商工会正副部長	勝又庄作	◇小島俊孝	片桐清司	熊谷 剛	
部落選出	◇北沢光司	吉川廣子	◇北林 明	西村忠典	◇三浦喜久夫
	木下 豊	◇林 守夫	庭村一男	◇棚田 頼	福沢千恵子
	◇熊谷元尋	野神智治			
推 薦	◇北島 剛	◇北原幸男	◇唐沢武文		

地元出身町議との懇談会報告

―教養部―

下市田区と公民館主催による「地元出身町議と区民との懇談会」は、去る六月十七日午後七時より、下市田公民館二階大会議室に於いて行なわれました。

改選されてほぼ二年目の当日は、小宮山佳子・伊奈川義公・久保田昌幸・倉沢

岩雄・熊谷元尋・原昭夫各議員の御出席を頂き、区より区三役、公民館三役、区民約七十名が出席し、下市田公民館長、区長の挨拶のあと各議員より町議活動報告をしていただきました。

小宮山社会委員より
コミュニティヘルスサ



ポート事業として筑波大の鈴木教授の研究に参加し、協力費として二〇〇万円補助。又ダッセル体操用の鉄アレイを配布した。保育園関係は現在定員四七〇名のところ三五六名の園児がいる。開放保育を行ない、未入园児との交流を行なっている。年金受給者の証明手数料は四月一日より一部無料化。一区へ福祉バス停留所の要望もあるが交通事情で当面は無理。

伊奈川社会委員

より

公共下水道は、平成十一年までに、四・五・六区を完成させ、平成二十年全完成予定。惣兵衛堤防内排水は予算八〇〇万円で浄化設備を作る。牛牧地区排水は今年度中に完成予定。粗大ゴミ収集、四区のタイヤについては今後の課題とする。

久保田総務文教委員より

地震対策として予算四九五〇万円で、天竜社跡地へ避難所を設ける。水ろ過機設置耐震診断などを行なう。あわせて防災計画の見直しも行なう。天竜社跡地取得は決まり、建物は天竜社で撤去する。学校五日制は今のところ順調にスタートしたと思う。不登校児問題では専任の教師を置き良い方向にむかい、深刻な「いじめ」は今のところない。

倉沢産業委員より

認定農家制度で資金の低利借入ができるが、町全体で十二人、下市田で三人申し込みがあった。昨年の農業販売高四億五千万円。下市田工業団地十六社は順調で生産高は一八〇億円。湯ヶ洞は三年目を迎え、昨年収益二億四五〇〇万円、利用客一二万五七四九人。御大の

館は予算五億四〇〇〇万円で平成八年オーブン予定。湯ヶ洞森林公園平成七年三月完成。マルマン・キラヤの進出、郵便局を下市田にほしい等についても報告。

熊谷建設委員より
新明神橋には、二・五mの歩道がつく。

出砂原の地域作りも進める。中学南側を陰地解消で伐採。竜西線改良工事の測量始まる。農免道路黒沢以南で農地の関係で問題があるので道を曲げる場合もありそう。

原建設委員より

広域農道は南大島川三ヶ所で工事開始。湯ヶ洞から国道、公民館から国道までの歩道、ビーワン横の道路等についても報告。

引き続いて行なわれた懇談会の内容はおおよそ次の通りでした。

Q 学校五日制の問題点はないか。

A 当時心配したが今のところ特別問題はない。
Q 防災問題で仮設住宅の用意はあるのか。
A 不十分なので備品など



とあわせて検討する。

Q 高齢者の働く場所を。A シルバー人材センターも利用してほしい。

Q 家庭介護に補助を。A 月一五〇〇円の補助がある。ショートステイも利用してほしい。

Q 児童館を学校の近くにほしい。
A 予算等がからんでくる問題なので充分検討したい。

Q 消防団員の確保がむずかしいので町ぐるみで考えしてほしい。
A 町で検討を始めている。

Q 災害時、老人等を運ぶには今の消防団員では手が足りない。一人暮らしの老人の把握もしてほしい。

A 日常、近所とのコミュニケーションをとるのも必要と思う。
Q 防火設備の充実。消防自動車の誘導、交通整理、線路そばに水の確保、水路の場所の確認など。

A 大事な問題なので充分検討してゆく。
Q 水源の確保に努めてほしい。広葉樹の植林も必要と思う。

A 山の寺の奥に水源地をつくらせている。
Q 道路新設、改良のための土地提供者の犠牲を少なくしてほしい。

A 下市田で町の半分を補助している。三年位で改正するが今年度はない。(要望)二区の踏切の状態が悪いのでJRに申し入れてほしい。雨が降っても使える屋根付きのゲートボール場がほしい。

議員の方々は日頃の活動の様子が聞きでき、地元の代表として活躍していただいている事がよくわかり、又区民の皆さんからも意見が多数出され、有意義な懇談会となりました。

萩の里に春が来た!?

勇壮な獅子舞 華麗な浦安の舞



梅王丸 眞くん 松王丸 久保田晋平くん 桜丸 三浦清貴くん

春の発表会 盛大に開催

春祭りにもなう郷土芸能保存会の芸能発表会が去る四月一日(土)、二日(日)の両日好天に恵まれ開催されました。

松王丸 六区 久保田晋平
松王丸 松王丸は、思ったほど緊張せずにとっても楽しくできた。出砂原に来た時はやはり知っている人が多く、とてもあがってしまっただ。最後の萩山神社になるとさすがに疲れが出て来てとても苦しかった。負けてたまるか、歯をくいしばった。石段の下に来た。最後だ。疲れたけどとても楽しかった。僕の兄も松

獅子曳き

松王丸

六区 久保田晋平

王をやった。兄弟共通の思い出ができた。

梅王丸 五区 眞平 眞
ぼくは、一日目の練習の日、どんな事をするのか、どんな練習をするのか、心配して行きました。行ってもぼくは、梅王丸になりました。それから、何日か行って踊りを覚えるのによゆうができてきました。他の二人も楽しくやっていました。そして、当日、ぼくは、きんちょうとして、お祭りに行きました。少し間違えた所もありましたが、自分の思ったようにできて、よかった。

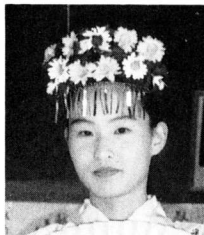
桜丸 三区 三浦清貴
ぼくは、ししひきで桜丸をやりました。初めおじいちゃんが、「ししひきをやるか。」と言ったのでびっくりしました。ぼくは、やってみることにしました。

当日までに、ちゃんと覚えれました。お祭り広場、Aコープ、安養寺、萩山神社、という順番で行きました。一番うれしかったのは全部終って、かた車をされて家に着いた時でした。

浦安の舞

一区 富田朝美

舞姫のお話が始落長さんから来た時はあまり乗り気ではありませんでした。該当者がいないからとの事でお引き受けしました。同じ舞姫の人たちとも仲良しになり、和気藹々と練習できました。

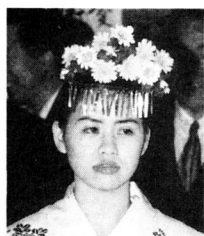


4区 林美香さん



1区 富田朝美さん

当日はとても寒い日でしたが、髪飾りや朱の袴に晴れやかさを感じました。みんなであんな公民館の前に出て行った時に、おじいさん達に「ほうほう♡。」と声をかけてもらい、気持ちが高まりました。ぶっつけ本番の玉串奉典には、驚いてとまどってしまいました。が、舞の方は間違いなくできて良かったです。



5区 矢沢真由美さん



2区 加藤千春さん

今では、舞を舞えたという満足感、舞を無事に終えることができた安心感と共々、この貴重な伝統が私達の世代の後々まで引き継がれてゆくことを願ってやみません。

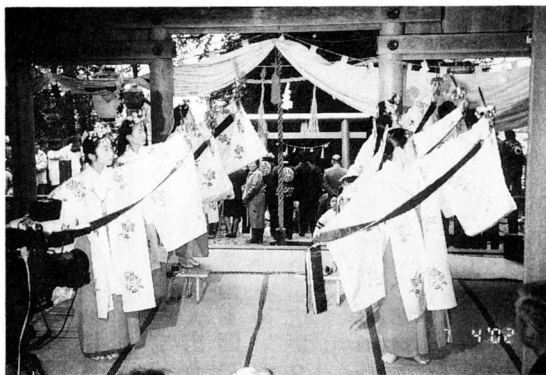


6区 唐沢真知子さん



3区 小沢奈保美さん

に、伝統ある浦安の舞をやらせていただけたことへの感謝の気持ちでいっぱいです。



小さな国際交流

五区 小川 純 昭

月会・ちあぶくろ会・もみじ奥様交友会・は

下市田五区生活改善センター建設以来七年たちました。その七年間にグループ活動が盛んになりました。少しグループ名を書いてみましょう。御詠歌・大正琴・料理教室・書道・お花・お茶・読書会・若妻会・育成会・双葉会・ふつき会・中老会・林種会・とまりぎ会・十四和会・三

まなす会・さくら会・民謡クラブ・高寿会・同好会・コスモス会・夢を語る会・美術会・生活改善グループ・つなひき愛好会・楽友会・廃油石けん教室、ざっと三十ほどあります。

この中に日中友好の会があります。区内加藤清敬さんがお世話しています。中国交流があります。幾年前に留学生としてお世話した娘さんが結婚されました、現在中国大使館員として、時折訪れます。この写真は

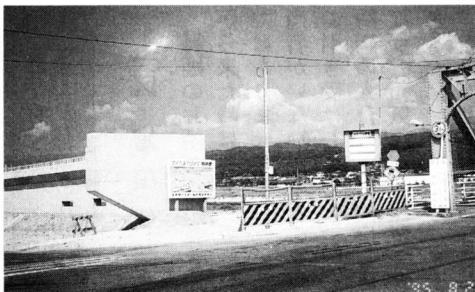
高森町が誇る、名所不動滝見物に行かれた時のものです。今年三月中国の方とセンターで食事懇談されて、小さな国際交流の場となっております。加藤様の話しによりますと、毎年盆すぎると、約二週間はど中国の方が来るそうです。それも中国ではエリート中のエリート、奥様の話によりますと、エリートだと云って特別扱いはいらないそうです。



さてセンターには七部屋ありますが、毎日グループ活動の場として使われています。中、歩道の設置など安全な住みよい街づくりが出来ればと考えています。

もう一つは八十二銀行の新築工事です。現在の店舗が老朽化しお客様に充分なサービスが出来ないのとこととで新築することになり駅前用地を取得され家屋の取りこわしが終り工事が進められようとしています。

り大変喜んでいきます。



萩の里祭りの状況と反省

教養部

七月二十九日(土)、

下市田区の一萩の里祭りが行なわれた。

連日、日照り続きの猛暑だったが、おかげで雨の心配もなく開催することができた。今年は、公民館の各部員の方々にも協力していただき準備も短時間にできた。

お祭りは開会式、第一部納涼盆踊りから始まった。第二部高森音頭他発表会では、各区自由曲にしたので新旧いろいろな踊りがあつて、見る人たちの目を楽しませてくれ大好評だった。

第三部子供花火大会では、二百五十人分用意した花火が、子供たち全員に配られ、一瞬にして澄み切った夜空が煙火で隠された。

第四部エアロビクスは、最後に全員が参加して、子供も大人も手と手をつなぎ、コミュニケーションの輪が広がった。今年も催事関係者の絶大な御協力があつて、準備、片付け、祭りの進行等、計画通りできたことを感謝したい。



「サアノ いらっしゃい…」
お楽しみコーナーも大忙し

明神橋の架替え

六区 下 平民 也

今、出砂原では二つの建設工事が進められています。

一つは明神橋の架替え工事です。現在の橋の上流側に大きな橋台が姿を現して来ました。工事は順調に進み来年三月頃には橋桁が架かる予定とのことです。

全長二百二十五米、道路の高さは現在の橋より三米余り高くなります。

架替え工事により取付道

路が変更され関係する家屋が十戸余りとなり移転が始まっています。それに合せて出砂原では架替対策委員会を結成して取付道路や家屋の移転、安全施設などについて市岡委員長さんを中心に委員の皆様が御苦労をおかけして県の関係や町当局にお願いをしているところです。この工事を一つの機会としてとらえ街路の拡

年数前から新築の話があり出砂原では地元店舗を残してほしいと商工会を中心に陳情書を出した経過もあり

下市田のみなさんこんにちは

東京に二、三日旅行の後久しぶりに下市田で爽やかな朝を迎えた。

窓の外から早朝の小鳥の声に変わり、長かった猛暑の夏を惜しむかの如く蝉の音がひっきりなしに聞こえて心が清む。

東京での人工的な

心なごむ町

北原 義明

騒音の後だけに、自然の音や昔の音に心が和む。

日本観光協会が『日本の特色ある音』一〇八例を選び出したのを見たことがある。

立石寺の蝉の声、華嚴の滝の水の音、祇園祭のおはやし、四国のお遍路さんの鈴の音などが入っている。

ところが現実の社会は、

ようこそ下市田へ

永住先は高森町

二区 竹下 永治

こんにちは、竹下 ジェーン(メス猫一オ)です。

すいし、自然もたくさんあります。

大変に気に入っています。

これから竹下家を紹介します。

さて家族ですが、ご主人

私たちが仙台からこの町へ越して来たのは、大雪の降った今年三月の末です。

暮らし始めてからもうすぐ半年になりましたが、住みやす



はかなり太めで、昔は柔道をやっていた様です。奥さんはエアロビクスにも時々行っている元気で明るい人です。

その夫婦の間にはにぎやかな子供が三人(男・女・男)で、今は山の上の小学生(六・四・一年)で、毎

日汗をかきながら通っています。私も毎日送りますが、疲れるので途中で帰ってきます。

また、来年の春にはご主人がここで、『接骨院』を開くという準備中ですので、私からもよろしくお願いします。

暴走的なバイクの音、夕刻のロケット花火、テレビから流れる子どもマンガの疑似音などが溢れている。



森の、いや下市田の昔からの音って何だろうな」と考えた。昔からの自然の音、悠久の音、心なごむ音は失いたくないなあと思う。

また最近、車でいろんな町を通ることが多い。そんな時、道端に植えられている草花に心を和ませてもらうことがある。

そんな場所を通る度、その町の人、その地区の人々

の心や顔までも、心やさしく感じとり、思わず嬉しくなることが多い。

昨年まで下市田公民館の教養部員をさせていただきました。仕事の関係で下市田を離れて五ヶ月。久しぶりの帰郷で「失いたくない音」「心なごむもの」を離れてみて、より感じ入った気がした。

下市田スポーツ大会 ＝ 体育部 ＝

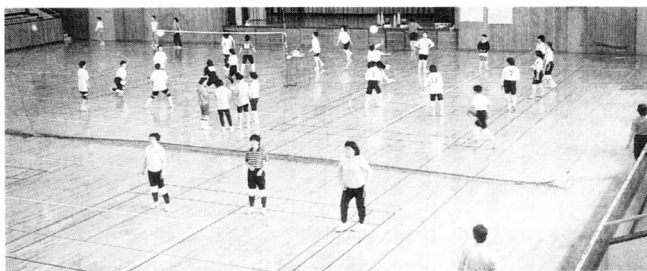
過日行われた、下市田区スポーツ大会をとりいれてみました。皆さんは、どう思いましたか。

今大会の結果

試合に、応援にと、熱のあった大会になったのではないかと思います。スローピッチソフトボールは来年度より主審、

以上の結果です。

今後皆様方のご指導ご協力をお願いします。



お犬様

四区 玉置俊通



犬にかまれて子どもさんが亡くなったというニュースは、ショッキングであった。どこか遠いところの話のような感覚で聞いていた。

ところが最近、ごく身近かで「犬にかまれた」という話をいくつか聞き、「これ

犬にかまれて子どもさんが亡くなったというニュースは、ショッキングであった。どこか遠いところの話のような感覚で聞いていた。ところが最近、ごく身近かで「犬にかまれた」という話をいくつか聞き、「これ

今年のこと

五区 宮下明子

一月十七日早朝の阪神大震災以来、地震について思い出したり、考えたり、行動した事を書いてみます。松島信幸先生等が創られた「伊那谷自然友の会」に創設当初より入っていた

き『伊那谷まるごと博物館』をテーマに学習しています。一見の驚きの連続です。

学生時代の松代群発地震、故郷で発生した西部地震等

言っている。「人間と犬は同居しているが、その間に主従関係があるはず。しかし、日本では可愛いあまりに対等、いやお犬様にしている」という。

また、ある愛犬家は「犬は買うものではない。家族になるのだから、もらってくるものだ(投機対象のブームへの警鐘)」と。

また、ある訓練士は「犬を家族とするには、きちんとした訓練をすること。世

随

想



案じると、夫は「落下物の心配はない。」と言いつつ

一安心。高速バスで長野へ心配なく出かけた。阪神方面の交通網がズタズタで、この方面に親類、友人、知人が多かっただけに参列者の変更が相繼いでいました。

号外での宙づり状態のバスの写真等、鮮明に蘇ります。

夏の休暇を利用して、知人、友人の見舞いを兼ねて阪神方面を訪問。電話が通じず、出した手紙の返事が

の中には、犬がきらいな人のいることも忘れぬこと」子どものころの愛犬との別れは、犬を飼いたいとい

生まれ変わる明神橋

二区 福島照義

現在豊丘村と、高森町を結んでいる明神橋は、昭和七年に建設され多くの人々に親しまれ、特に夏の灯籠流し、花火大会、又カヌーの町としての出砂原の風物

詩でもあり、橋としての機能を充分果してきました。平成の年を迎え早や七年

六十余年の歳月が流れ、橋も年には勝てず老朽化の問題、又大型輸送時代を迎えた今日、高さ、幅等安全性の問題等々の状況の中で、新しく明神橋が架け替えられる事になり、すでに橋台も出来平成九年度には近代的モダンな素晴らしい明神橋の渡り初めが出来る予定だそうです。

そこでこの橋の架け替えにより多くの問題が出ております。特に下市田河原では広い水田を潤している用水の取り入れが、この橋の取付け道路の一番幅のある場所の地下を通ると言う事です。

しかも毎年難作業で悩まされている取入口の沈砂池の砂出作業の問題、能率面、安全性を考えた構造、長い地下水路管内の作業に伴なう照明、換気、作業機械等

う気持ち、今でも大きくはばんでいる。これが、わたくしの中の犬なのです。

これらの問題は単に橋を作っている関係者だけのものではなく、この用水は町の工業団地に流れ、万一の場合の防火用水としての重要な意義のある水路である事を踏まえ、町を先頭に役員の皆様方と共に、各関係機関と折衝し、後世にいつまでも安心して残せる立派な水路の完成をお願いするものであります。



小中学生の作文

水泳

小三 北沢 徹(二区)



君 徹

ぼくは、夏休みに伊賀良のアクアパークへ、ぼくのお母さんの友達とその子供といっしょに行つて来ました。最初に、お昼を食べてから、まずアクアパークで一番長い流水プールで泳ぎました。流水プールは、二一五メートルもあるそうです。ぼくが、流水プールで泳いでいたら、友達と会いました。話しながら泳いでいたら、小さなスライダーがあったので、二人でしました。そのスライダーの名前は、『グリーンリバー』と言うそうです。スライダーは、けっこうスピードがついて、最後には飛ばされて

はなにな水が入ってしまいました。次に『ホワイトリバー』と言うスライダーをしました。ホワイトリバーは大きな取手のついたうき輪に乗って、すべります。と中で一ヶ所へこんでいて、そこから水が出ているので顔にかかりました。そのあと、二五メートルプールで弟と泳ぎましたが、弟は背が低いので、うき輪を使って泳ぎました。ぼくは平泳ぎを、れんしゅうしました。また、いつか来たいと思いました。



只今、中学三年生

中三 上沼 賢司(六区)

僕は、つい最近までテニスに燃えていた中学三年生です。自分で言うのも何ですが、根性はあるほうだと思います。しかし不幸な事に大会ではいつも負けまくって、僕のハートはボロボロです。このむなしさと、僕のシャイなハートをもっと傷つけていること...それは高校入試が待っているとい

思い出に残った夏休み

小六 伊藤 光永(三区)

ぼくは、八月三日(九日)までの七日間、信州少年の船に参加しました。少年の船というのは、長野県中の小・中学生約一〇〇人が、北海道に行き、キャンプ生活や、色々な遊びを通して友達作りをする旅行です。ぼくは、当日期待と不安で朝三時半に目がさめてしまいました。六時に集合バスで長野県全体の集合場所善光寺にむかいました。こ

の勉強嫌いは誰に似たんでしょう」

とか言い

ますが、

はつきり

言って親

に似たん

でしよう。

でも僕は

「実はアメリ

カ人の父とフ

ランス人の母に似たんです。

僕この家でいじめられる家

なき子なんです。」と笑わ

せてやります。暑い夏もこ

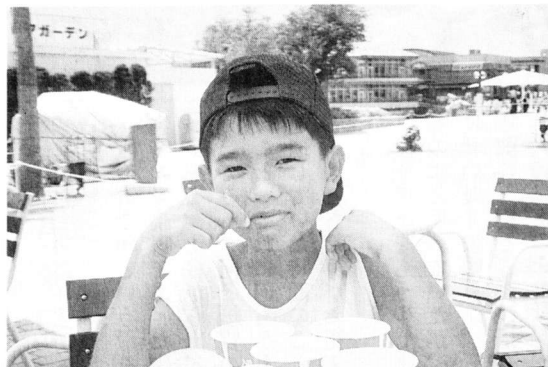
ンプ生活や自然体験、この

ころになると友達というよ

り、もう家族みたいになり



君 賢司



君 光永

はずかしかったけれど、誠実・勇気とでっかく書きました。楽しかったです。



高くなるのは、では、では夏はどうかと、診療所の婦長さんに血液検査をお願いして、一緒に夕食を食べたりもしました。

現在は、ダンベル体操で体をきたえ、松川町のプールに行つて水中歩行。中

グループ紹介

すこやかグループ

三浦 ひさ枝

私達すこやかグループの発足は、平成二年の十月です。下市田は若くて死亡する人が男女共に多く、又高脂血の人の割合も、他の地区にくらべて、多いことに驚き、宮島保健婦さんの指導で、三区の保健協力員さんが常会内に呼びかけて、食べることは？の勉強会が始まりました。毎回会

の始めに血圧測定をして頂き毎日食べているものの調査から、バランス食とは・体内でどうなっているのか。それについて体のしくみを知り、調理実習等、行なっています。

毎年ヘルスの結果について勉強し、コレステロールとは、高血圧とは、脳卒中とその前ぶれについて等も学習し、当町のヘルスが、お正月後のためか、コレステロールや、中性脂肪等が

年のオバタリアンが水着姿で水中を歩いている姿を御想像下さい。松川の保健婦さんに御指導頂きました。

もっと身近に、こんなプールがあったらいいのになあとの意見もありました。

高齢化対策としても一つ、骨粗鬆症の予防のために、骨の学習をしたいと思つて居ります。カルシウムをとるための高率の良い食生活はどうすべきか。元気で老後を送るための、切実な願いの一つだと思います。

す。この間会員に多少の変動はありましたが現在会員は十三名他に準会員の方数名居られます。毎月二回の読合せの他、年間二乃至三回、古美術自然、文学などの研修旅行を通して、人と人との交流、心の豊かさ、老後の在り方を求め、生きる喜び、人情の機微、古来からの日本語の美しさに感動して来ました。又源氏の読み合せばかりでなく、時事問題を話し合い、折りにふれ先生がコピーして来て下さる、心に浸みる文章を読み、皆で意見を出し合います。毎年ささやか乍ら新年会、暑気払い、忘年会など開き、賑やかな雑談の他、大正時代の童謡から演歌まで、みな年齢を忘れて合唱し楽しみます。夫々の立場で戦争を

下市田源氏物語読書会

橋 都 弥 生

下市田源氏物語読書会の発足は、昭和五十二年二月です。数人の方々の強い要望で、地元の藤松千年男先生をお願いし、先生の御厚意と御指導を得て当初八名の会員が、死ぬまで勉強しようとの大志を抱いて、平安時代紫式部の

作った源氏物語、全五十四巻の大作に挑戦しました。以来足かけ十八年になります。

体験した同志です。今読書欄外の表示が変わっているのにお気づきだろうか。今迄の「下市田区報」から「下市田区報・館報」に変えた。館報という表示がないために、中央公民館の町内各公民館報の展示場所にも展示されていなかったからである。これを契機に更に努力して、見るだけの館報でなく、読む価値のある館報に育ててゆきたいと思う。

何にしても、暑い戦後五十年の夏も終りに近い。



編集後記

戦後五十年という。その当時の愛読書であった少年倶楽部を、土蔵から出して開いてみる。何と紙質の悪いこと、それに何もかもが逼迫していた時期のことからか何とも装訂がお粗末である。

区報の紙をもう少しよいものにと欲していたが、誠にぜいたくの限りか。五十年前に、編集や装訂に携わった人達はどのような思いで、悪い環境の中で仕事をしていただろうか。恐らくや環境が悪いだけに却って、使命感に燃えていたに違いない。

ところで、区報萩の郷の欄外の表示が変わっているのにお気づきだろうか。今迄の「下市田区報」から「下市田区報・館報」に変えた。館報という表示がないために、中央公民館の町内各公民館報の展示場所にも展示されていなかったからである。これを契機に更に努力して、見るだけの館報でなく、読む価値のある館報に育ててゆきたいと思う。

何にしても、暑い戦後五十年の夏も終りに近い。